

【保健研究センター 6月だより】

～麻しんの排除に向けて！～

現在、風しんが大流行していますが、今月のセンターだよりでは、これまで保健研究センターで実施してきた麻しんウイルスの遺伝子検査の結果を含め、奈良県内における麻しん患者の発生状況等に関する情報を提供します。

麻しんについて

麻しんは麻しんウイルスによっておこる感染症で、感染力はきわめて強く人から人へ感染します。感染経路としては空気感染のほか、飛沫や接触感染など様々な経路があります。不顕性感染はほとんどなく、感染した90%以上の方が発症します。



麻しんを取り巻く近年の状況

「麻しんに関する特定感染症予防指針（平成19年12月28日厚生労働省告示第442号）」に基づく、麻しん排除の一環として、平成21年1月15日付け厚生労働省健康局結核感染症課事務連絡「麻しんの検査体制の整備について」により、各都道府県は麻しん患者の検査診断のための検査体制を整備することとなりました。保健研究センターでは、県内で発生した麻しんを疑う患者について遺伝子検査の検査体制を順次整え、2011年6月以降は麻しんを疑われた全ての患者について、管轄保健所と医療機関の協力を得て、検体を採取し遺伝子検査を行ってきました。

遺伝子検査の結果および届出状況

遺伝子検査を実施した16人の検体からは麻しんウイルスの遺伝子は検出されませんでした（表1）。また、奈良県では感染症法に基づく麻しん患者の届出は年々減少傾向にあり、2012年は0件となりました（表2）。



今後について

現在、「麻しんに関する特定感染症予防指針」は一部改正され、平成25年4月1日より適用されています。改正内容では、「平成27年度までに麻しんの排除を達成し、世界保健機関による麻しんの排除の認定を受け、その後も麻しんの排除の状態を維持することを目標とする。」と目標の改正がされています。また、届出・検査・相談体制の充実の中には「医師による麻しんの届出に当たっては、可能な限り、診断後24時間以内に臨床診断としての届出、血清IgM抗体検査等の血清抗体価の測定の実施及びウイルス遺伝子検査用の検体の提出を求め、麻しんではないと判断された場合には届出の変更や取下げを求めるとする。」とあります。

表1 遺伝子検査を実施した麻しん疑い患者一覧

検体採取日	年齢	性別
2011年6月9日	49	男性
2011年6月17日	44	女性
2011年7月12日	1	男性
2011年7月13日	16	女性
2011年8月11日	29	男性
2012年3月8日	6	男性
2012年3月28日	3	男性
2012年4月20日	72	女性
2012年7月2日	28	男性
2012年7月27日	30	男性
2012年8月6日	2	男性
2013年2月28日	40	男性
2013年5月10日	8	男性
2013年5月16日	38	女性
2013年5月20日	65	男性
2013年5月22日	15	女性

表2 麻しん届出件数

年	件数
2008年	12
2009年	3
2010年	3
2011年	2
2012年	0

医療機関の皆様には、今後とも麻しん排除に向けてご協力をお願いいたします。詳しい情報は厚生労働省や国立感染症研究所のホームページ等を参考にしてください。

（ウイルス・疫学情報チーム 米田 記）

保健研究センター6月だより